

リブレラ・ソレンシア 学術セミナー 症例報告

荻谷動物病院グループ葛西橋通り病院
榎本 拓也



荻谷動物病院 グループ

- ・東京都江東区・江戸川区・足立区・千葉県市川市に5病院
- ・3病院で夜間診療
- ・獣医師62名
- ・葛西橋通り病院：獣医師7名
- ・5病院の中では最も一次診療寄り

ペットケアクラブ

- ・当院の会員制健康管理サービス1991年～
- ・毎月1回診察料が無料（ワンニャンデー）
- ・健康診断割引
- ・予防薬割引
- ・誕生月割引
- ・当院利用時常時10%割引



ワンニャンデーとOA

毎月健康でも来院	経時的な体重のデータ	病院にわざわざ行くほどではないけど気になったこと一共有	加齢による変化？それとも疾患による変化？	爪切りなどのケア
OAの症状：単発ではなく継続的	複数回の受診で裏面度が増える	OAの痛みご家族は痛みと認識していないことが多い	老化(筋肉量低下、活力低下、易疲労性、他疾患による影響)との鑑別が重要	複数の目で経時的な変化を観察
獣医師が採るOA症状	飼い主が感じるOA症状	1〜2ヶ月かけて擦り合わせていく		



問診特記事項

犬

散歩の歩き出し	寝起きの強張り
上下動の失敗	段差が苦手に
散歩嫌いに	おもちゃで遊ばなくなる

猫

上下動の失敗	段差が苦手に
トイレの失敗	爪研ぎの変化
活動時間	走らなくなった

身体検査

犬	猫
四肢の触診	四肢の触診
歩様	(歩様)
診察台の昇降	キャリーケースへの戻り方
滑りやすさ(踏ん張り)	爪
前後肢の負重バランス	筋肉量
筋肉量	腰仙部の疼痛

OAかな？
と思ったら
・・・

- OAの概要、特に症状の説明
→ポスター
- サプリメント
- 1ヶ月程度経過を見ることも

- 画像検査
- 試験的治療
- ①NSAIDs
- ②ガバペンチン(特に変形性脊椎症)
- 稀に③オピオイド
- だったが・・・

当院の抗NGF抗体薬使用実績

現場での 薬剤の使い分け

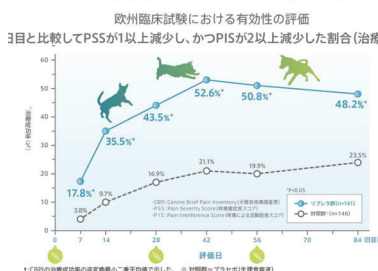
- NSAIDs
- 原則長期投与はしていない
 - 胃腸症状・腎臓
 - リスクvsベネフィット
 - モニターに要する費用

- ガバペンチン
- TIDがネック・・・特に猫

- オピオイド
- 比較的高価
 - 鎮静作用
 - 投薬の難しさ、吸収率のばらつき
 - 通院頻度

- 抗NGF抗体薬
- 急性痛であれば他薬剤と併用
 - 慢性痛なら単独使用
 - 使用できないシーンが少ない？

初回投与7日目から、有意に鎮痛効果を発現



リブレラ・・・21頭
ソレンシア・・・23頭

※OAの画像診断は全ての症例で行なっているわけではない
※一部OA以外の効能外使用も

- 現時点で薬剤による副作用を感じた症例はいない
 - 効果の実感は大体データ通り？
 - 犬 半分以上
 - 猫 7割以上
- 臨床現場では診断が確定的でないため、あまり数字にとらわれなくても良いのかも・・・

使用に際してのインフォーム

- (軽度の) OAは、診断・治療効果のいずれも明確な判定法はない
- ご家族の観察がとても重要
- 抗体薬は複数回投与後に効果がより顕著になることがある
→2回投与後の効果判定を推奨
- 3-4週経過後や休薬後に症状がぶり返すことがある
→その場合は、逆に薬剤の効果は確かと言えるかもしれない
- 投与前に、どの症状をターゲットに治療を行うかを共有
→治療の納得感

症例 1

14歳 ラブラドルレトリバー
避妊済雌

問診(そういえば・・・くらの裏告)

- 6-7月：車に乗せる際に飛び乗れず大変になってきた
- 8月：寝起きにふらついた
- 9月：階段を登れなくなって補助
→ご家族は加齢と判断していた

身体検査

- 院内の歩様：異常なし
- 筋肉量低下：軽度
- 診察台を一番下まで下げて飛び乗るのに思い切りが必要



症例 1

9月10日（第1病日） リブレラ1回目投与（併用薬やサプリメントなし）

第29病日

問診：

- ・階段を登れるようになった
- ・一歩目はまだ躊躇するが登り始めたらスムーズ
- ・日によってまだ波はある

リブレラ2回目投与

第56病日

問診：

- ・階段の昇降、立ち上がりがスムーズになった
 - ・来院数日前から、階段の一歩目を躊躇する症状が再発するように
- リブレラ3回目投与

以降毎月リブレラ投与のみで良好に管理中

症例 2

4歳 シーズー
去勢済雄

問診特記事項

- ・3日前から散歩で座り込む
- ・歩様がおかしい
- ・痛がっている様子はない

身体検査

- ・左股関節後方への伸展時に軽度疼痛あり
- ・左後肢の負重低下

画像検査

- ・股関節形成不全 変形性関節症
- ・左>右



症例 2

第1病日

- ・NSAIDs（第1～4病日）、サプリメント（ ω -3）開始

第3病日

- ・まだ散歩時すぐ座り込むが、改善は見られている
- ・リブレラ1回目投与

第27病日

- ・前回診察後から症状消失
- ・第22病日にトリミング後に破行、散歩時座る様子が一時的に出た
- ・リブレラ2回目投与

第59病日

- ・歩行時気になる様子全くなし、トリミング後も異常なし
- ・リブレラ3回目投与

第88病日

- ・歩行気になる様子全くなし
- ・リブレラ投薬せず経過観察
- ・今後投与間隔を延長
- ・股関節形成不全に伴う変形性関節症の内科管理で使用し改善が見られた

症例 2

症例 3

雑種猫 21歳

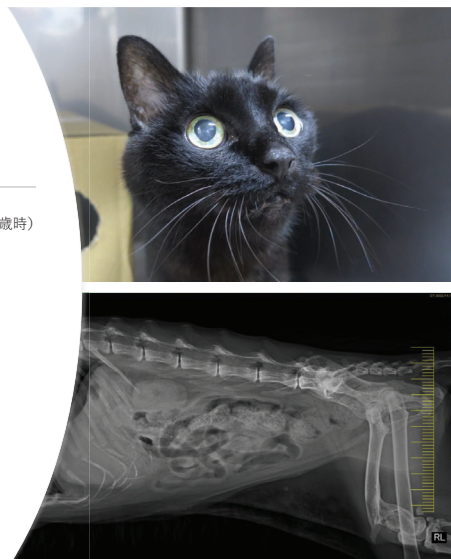
既往歴：肥満細胞腫・右大腿骨骨折（1歳時）
変形性脊椎・高血圧

問診特記事項

- ・歩行時のふらつき、走らなくなった
- ・トイレの段差を越えられない
- ・前肢だけトイレ内、排尿はトイレ外
- ・排尿姿勢を取れない
- ・踵を付く
- ・歳だからしょうがない？

身体検査

- ・常時踵をつく
- ・キャリーバックに入ろうとしない



症例 3

第1病日

- ・ソレンシア1回目投与（併用薬：アムロジピンのみ）

第30病日

- ・変化なし、ソレンシア2回目投与

第60病日

- ・歩行時のふらつきが無くなった
- ・トイレに全身が入れるように
- ・ご家族のご希望もありソレンシアは投与せず

第86病日

- ・再び顕著に踵を踵をつくように
- ・ソレンシア3回目投与

第114病日

- ・走るようになった！
- ・ソレンシア投与せず

151病日

- ・歩行可能だが右後肢の踏ん張りが効かない
- ・ソレンシア投与時は問題なく歩けていたのに・・・
- ・ソレンシア4回目投与

182病日

- ・歩様正常に また走っているとのこと



まとめ

そもそもOAや変形性脊椎症をはじめとする慢性疼痛は評価が難しい

疑わしい→診断的治療 も

- 抗NGF抗体薬は最低2回投与してから効果判定が良さそう
- 大型犬では相対的にコストパフォーマンスが良い
- 症例によっては投与間隔を延ばせる
- 休薬や3週経過後に再燃する症例は効果がある（つまり痛みもある）と判断している
- 超高齢の猫などNSAIDsの使用を躊躇する症例でも問題なく使用可能→使用症例を選ばない
- 少ない症例数ではあるが、副作用を認識した症例はいない
- 高齢期のQOL維持や改善はご家族の関心が非常に高い
→満足度も非常に高い